

Key Person



日本結晶光学(株) 代表取締役社長

吉田 忠広

長年積み上げてきた単結晶育成技術に設計・加工・組立技術を融合させて
様々な製品を生み出し、広く社会に貢献している『日本結晶光学』。

同社の吉田社長は誰よりも仕事に情熱を持ち、人を大切に歩む経営者だ。

勤務時代は技術職を経て営業職となり、各国の取引先と信頼関係を構築して事業の発展に寄与。

また、子会社の再建にも取り組み、各社の社員の信頼を勝ち得て立て直しを成功させた。

やがて経営者となった後も、全社員に目を配りながら同じベクトルで歩み続けている。

「全従業員の幸福を追求し、価値ある商品によって人々の繁栄と平和に貢献する」——

その経営理念を体現しながら、社長はこれからも人と社会の発展に力を尽くしていく。

(対談記事は 52 ～ 53 頁に掲載)

「関わる全ての人を大切にしながら、
世界の人々の繁栄と平和の実現に貢献したい」

熱

技術職、営業職、事業改善を経験

幅広い知見を活かし経営者へ

——『日本結晶光学』さんは日本を代表する光学材料メーカーと伺っています。

光学結晶事業と検出デバイス事業の2本柱で事業を展開していきまして、光学結晶事業では高品質なフッ化カルシウム(CaF₂)結晶を提供しています。CaF₂は半導体を製造する際に欠かせない半導体露光装置やレーザー装置、半導体検出装置に用いられる材料で、当社では部材を加工メーカーに提供しています。また、検出デバイス事業ではタングステン酸カドミウム(CWO)シンチレータ及びディテクタ製品を提供しています。これらはセキュリティ・工業・医療用のX線検査装置に利用されていて、空港の預け荷物検査装置、車・コンテナ検査装置、非破壊検査装置などに組み込まれて人々の安全を守っています。

——いづれも私たちの社会に欠かせない物ばかりですね。とても専門的なお仕事ですが、吉田社長は長くこの分野を歩んでこられたのですか。

学業修了後『三井金属』の技術職で採用され、溶融アルミニウムをろ過する装置の開発に携わりました。その後、海外営業部に配属されて装置を売り込むために一時渡米。技術者から営業マンになったことは、私の人生を大きく変えました。後に中国・ロシア・ニュージーランドなど世界中から引き合いが来て、新たな扉



代表取締役社長
吉田 忠広

が開くきっかけになったんです。

——技術職から営業職になったことに戸惑いはありませんでしたか。

私は海外の方とのコミュニケーションが好きだったので、営業職に違和感はありませんでした。ロシアでも中国でも信頼できる人間関係が築けたお陰で、たくさん製品を買っていただくことができました。中国では装置やカートリッジフィルターの製造も現地で行うようになりました。現在ではアルミ缶の材料には標準的に使用されています。そして2010年からは子会社の再建・改善を担当し、事業改善のプロジェクトチームを編成して現状分析を行い、製品の売り方

や値付けの再設定、販売する製品を絞ることでメリハリのある経営に転換し、収益改善に成功しました。

——行く先々で子会社の社員さんと関係を築いていくのは大変だったでしょう。

私が大切にしていたのは、親会社から来た人間だという意識を持たず、上から目線の発言は絶対にしないことでした。社員の皆さんには「みんな集合!」という感じで集まってもらって、生意気なアドバイザーとして(笑)私が意見した後、具体的な再建案については皆さんでアイデアや意見を出してくださいというスタイルでした。

——独断で変えていこうとせず、社員さ

月刊誌 MASTERS 2025 年 11 月号掲載



ゲスト(タレント)
野村 将希

んの意見を募り足並みを揃えるスタイルは安心感がありますね。

やがて2016年に当社の担当になり、事業改善案をまとめたことから、責任者として私が現職に就任することになりました。

社員を大切にしながら事業成長を実現
世界の繁栄と安心・安全に貢献する

——経営者となられて、心情の変化はありましたか。

責任ある立場となった瞬間、社員一人ひとりの顔が頭に浮かび、意識は全く変わりましたね。スローガン「世界でキラ

りと輝く日本結晶光学」は私が社長になる前からありましたが、もし自分が経営者だったらこういう事業運営をしたいという思いを言語化した経営理念「全従業員の幸福を追求し、価値ある商品によって人々の繁栄と平和に貢献する」、モットーである「感謝、責任、成長・進化」を人の受け売りではなく自分でつくれたことは、私の人生の中でも最も幸せで貴重な体験です。

——社員さんとのコミュニケーションで心掛けておられることは何ですか。

技術的なことに経営者が立ち入ると、社員は社長の意見に従わざるを得なくなるので、私はなるべくスペシャリストで

ある社員に任せるようにしています。また、全社員と年2回の面談を6年間続けましたが、もらった意見は即検討し、必要ならばすぐに実行してきました。とは言え、社長に意見を出せば何でもやってもらえると誤解されたり、中間管理職の立場もなくなったりする懸念があるので、昨年から面談形式をやめて、今は現場に行き一人ひとりに声を掛けながら情報を集める形にしました。とにかく私は受け身が嫌いなんです。

——これだけの規模の会社の経営者が現場に出て社員さんの声に耳を傾けているのは珍しいと思います。

社員の皆さんに「ちゃんと見てもらえている」という安心感を持っていただけというのは、経営理念にも通じる私の信条です。

——いかに社員さんを大切に思っているかが伝わってきます。今後はどのような展開を目指されますか。

光学結晶事業は中長期的に発展していく見通しなのでCaF₂のキャパアップを目指します。検出デバイス事業においては現在、船のコンテナの検査は数が多いので、抜き取りでしか検査が実施されていないので、今後は麻薬などの密輸が増える中、検査需要は確実に拡大していくと考えています。また、現状の事業が2本柱でリスクがあるので、3本目の事業柱を模索しており、そちらにも挑戦したいですね。

(取材／2025年8月)

日本結晶光学 株式会社



【本社工場】群馬県館林市野辺町 810 番地の 5 【上尾工場】埼玉県上尾市上尾下 1013-1

URL : <https://nk-k.co.jp>

情報社会を支える半導体製造システム。安全な社会づくりに必須なシンチレータやX線検出器。これらの装置に不可欠な光学材料や様々な製品を提供しているのが『日本結晶光学』だ。同社の製品は世界中の半導体・セキュリティ分野を中心に活用されており、人々の繁栄と安心・安全な生活の実現に貢献している。タレントの野村将希氏が吉田社長にインタビューを行い、同社の事業や社長の歩み、人を大事にする経営スタンスなど様々なお話を伺った。

半導体・セキュリティ分野の最前線で貢献している 「世界でキラリと輝く」光学材料・部品メーカー

COLUMN

『日本結晶光学』の強み

半導体露光装置などに利用される高純度フッ化カルシウムや、X線検査装置に欠かせないタングステン酸カドミウムを使った製品を作る世界でも稀有な会社である『日本結晶光学』。同社の「従業員行動指針 十か条」にその強みが秘められている。同社はその強みを活かして、今後も社会に貢献していくに違いない。

<従業員行動指針 十か条>

- 一．いつもどんな時も感謝の気持ちを持つ
- 二．自分の仕事に責任を持つ
- 三．チャレンジ精神で進化し続ける
- 四．大きな声であいさつする
- 五．相手を心から思いやる
- 六．真実から逃げない
- 七．報・連・相を怠らない
- 八．何事も自分事として捉え行動する
- 九．将来を見すえて考え・行動する
- 十．社会貢献を意識して考え・行動する

after the interview

野村 将希・談



「管理部の永井さん曰く、『吉田社長はとても社員に寄り添ってくれる経営者。新体制発足後に入社して8年になりますが、入社時から様々な良い変化が起こったのは全て社長の行動力の賜物だと思います』と語っておられました。また、社内では全社員が『さん』付けで名前を呼び合う中、社長も『吉田さん』と呼ばれているそうです。社員さんと同じ目線を大切に横並びで日々奮闘されている様子が伝わってきました」